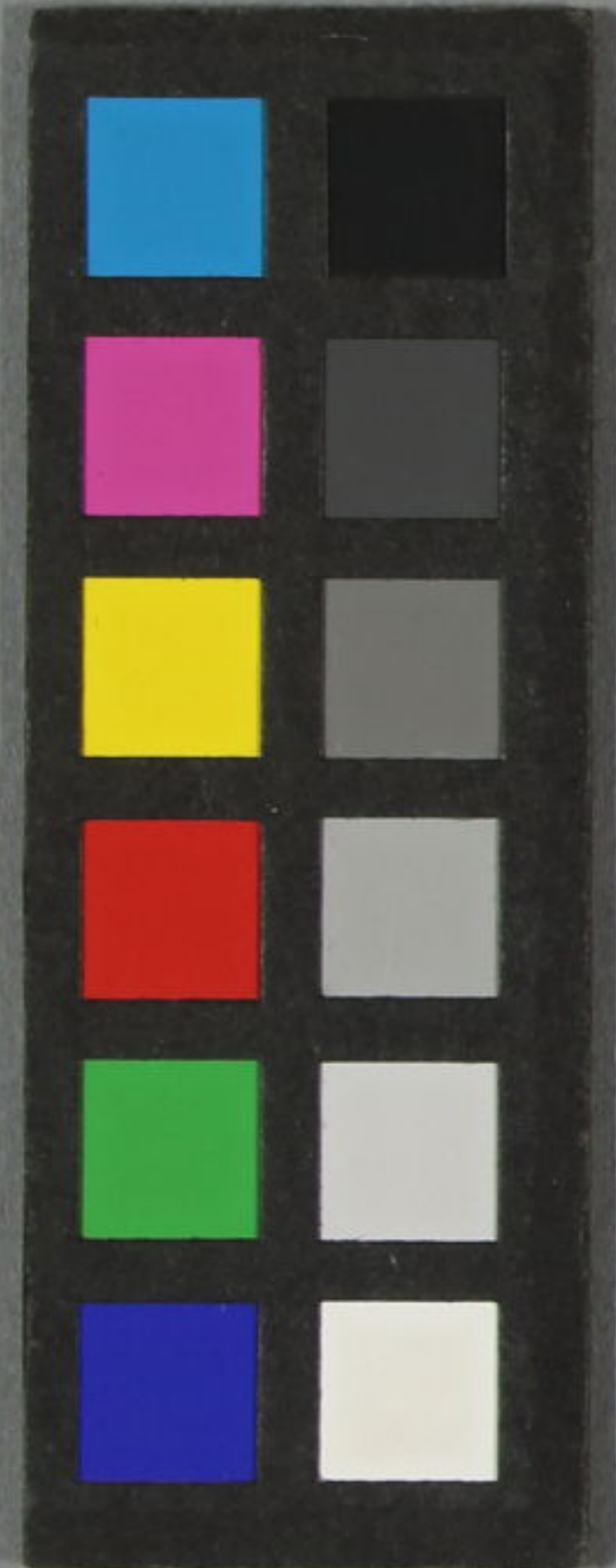


佛譜新五百題  
金

5  
4667  
1





田喜庵主人輯

仇和齋新五万巻

江戸喜雲堂英文発

新五万題刻

此書は古今を述べるもの之復物也

此書は古今

の事を知るに金合の箱はきり

又此書は

古今の事を知るに金合の箱はきり

又此書は

古今の事を知るに金合の箱はきり

又此書は

古今の事を知るに金合の箱はきり

又此書は

古今の事を知るに金合の箱はきり

又此書は

古今の事を知るに金合の箱はきり

又此書は

古今の事を知るに金合の箱はきり

又此書は

古今の事を知るに金合の箱はきり

又此書は

古今の事を知るに金合の箱はきり

又此書は

古今の事を知るに金合の箱はきり



六多々廿集の送懐めその廿集はるる護め  
此遺懐かこころなすあひくちなご何  
きり廿集の年玉珠もある護めくを  
つやも手しちゆほと其後ゆをえとゆをてと  
るまひりしる日夫何休のきり句類題  
はるゆ橋きめあまのくまると  
左へそのくこの云ける句まを踏さう一級  
二級と心を持まると行くとけまき道まのけまき

七多々廿集の送懐めその廿集はるる護め  
大有力のくまるともはるゆを世のいごま  
守りまきまの題えあまゆ時ゆまゆ境まの  
務らんまをいごまのけまき  
集めつひまのそ題ま句の境界め心を置こ  
いごまをくこれ捷後まのけまき  
古事まをまなく思ひ合まをたははに歌のま  
ま後まを奥底まをなく思まをつてまをいごま



際から古書一巻もよび読ませたりといふ事あり  
すきくせし遊楽ある句はたまたまいふ所  
木綿の衣を着るあがらぬ事あり  
又由緒とのぼきし——  
いもあひあむちをたかひし  
かしくよむに交はるる事あり  
さしつかへなき事あり  
くこの句をよむに持しむる事あり

何程す多し一級と二級と田舎に  
新しき物に好むは未だなき事あり  
多しと知れぬ事あり  
あきと物に代はるる事あり  
改まる備への日あり



7831



門 八 5  
號 4667  
卷 1

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

凡例

昭和十六年一月十一日寄  
尼野貴英氏贈

。おほよそ既述の後句と題をちておれりてり  
涼侘の題持方の類をけりて是て歌林歌子記  
らき歌叢かゝるもの活けりてふ併て編集牛  
汗のあとの櫻玉集はもと子おの始めよきおもひ  
とちて草程をうけりてなまてなひよおよとも時  
至りてとむかへく集おをまてぬにぬる寅の事  
史休金令おの系世止清り強と孫の筆記うりま  
くの風哲の金玉を懐りては、詠邦の文書お  
く是等の句をもくまてくふを歌真満と







のまゝに先かゝる撰者の句をまゝく「巻一」ハ  
 句の不足を補はるゝ此巻中「一」記してきと「昔  
 近き」傳ふんの序々やを思ふハハハの「此」ハ  
 人あましく世家高の極々詩格の例「一」ハ  
 。巻中「一」ハ「一」ハ「一」ハ「一」ハ「一」ハ  
 志づれと始るを列ねてかゝるを「一」ハ「一」ハ  
 古人の「一」ハ「一」ハ「一」ハ「一」ハ「一」ハ  
 一ハ「一」ハ「一」ハ「一」ハ「一」ハ「一」ハ

名録 任題次不論前後

山城

草阜 草圃 千枝女

京

。蕪村

嘯山。蝶。更。心。董。移。竹。諸。九。居  
 方廣。車蓋。月。漢。馬。印  
 如。泥。々。蒼。虬。百。池。貨。僕。士。卵。寸。丈  
 雪。雄。梅。價。金。菜。杜。蓼。路。一。木。海  
 守。三。千。崖。六。倉。乙。彦。月。峰。空。阿  
 五。芳。梅。兮。定。雅。布。雪。其。成。岱。李  
 尾。全。棋。肆。瓜。坊。李。竹。吳。老。一。扇  
 遲。春。故。友。茶。來。紫。金。桐。栖。三。味



蒼野	赤男	如山	木老	蘿丈	杉五	奇洞	長高	木仙	釣翁
蘆臨	湖多	核伏泉	禾木	古川	我雪	搗雄	米彦	友國	一草
松高	玉甫	可成	祇白	真拙	百嬰	扇暑	魯隱	蜂友	大阪
湖外	方中	其友	竹吾	福米	一肖	三津人	萬和	庭竹	大江丸
竹因	方貨	孤龜	竹兒	七越	林下	菴十	屋鳥	尺艾	年六
幽季	百卿	梧柳	耕雲	星譜	琴亮	古樂	瑞馬	月居	二柳

武陵	吳友	子雄	李冬	圭々	菊裡	喜存	篋六	百養	万壽友
守豐	蘿元	如耕	青々	方馬	古岳	河内	烏明	律山	井左
光浪	朗光	吐山	千柳	徐覺	大和	耒耜	和泉	魚眼	梅一
野楊	巴人	長水	林糸	其糸	魚俵	笛子	清風	自樂	模立
丹後	丹波	三喬	可翠	和翠	緩駕	雪橙	天光	井眉	一枝
万籟	青阿	杜口	左一	霞村	仕候	燕之	干枝	一我	夷



○綾彦	梅岡	棹歌	尺城	貯江	家鷄	桑人	美作	蘭々	巍道
長門	安藝	孤舟	備中	楚狂	播磨	逞素	梅人	嵐吹	伯耆
難屈	篤老	八重女	春樹	菊雄	○青蘿	無一	祭女	嵐水	歸來
万井	凡卜	晉和	溪堂	杜沆	玉骨	百丈	玉川	太柏	草臺
○豐前	玄蛙	石草	曉翠	梭磨	○蝸国	李青	鶴大	冬曠	如毛
○露竹	可友	五蓬	介	寬里	備前	宇橋	如期	指厚	出雲

蘭文	三岸名	○綺石	五由	糸遊女	写月	尹舟	東阜	其嵐	儿卜
竹市	○天外	肥前	五巾	婦來	以木	菱曉女	豐後	木父	文砂
薩摩	芳水	川久	東鶴	里芝女	麻彦	鯉尺	○巽我	巴丘	玉泉
琴剛	日向	莫二	化竜	筑後	三顧	龜六	葵亭	来同	露白
泰昌	其芳	菊也	月露女	畔鶴	徂牛	下住	月化	黒水	万里
伊豫	浣水	和川	肥後	三波	筑前	弗水	五杉	○沉流	跡六



竹	花	魯	芳	李	弓	阿	春	涼	搏
世	陶	吟	之	長	雄	波	祐	瓜	堂
還	于	惠	柏	若	李	草	都	靜	画
古	當	編	翠	披	徑	史	克	山	中
春	子	芟	。祐	烏	有	履	贊	樸	何
雄	女	九	昌	白	則	一	岐	水	童
米	千	三	。龜	近	左	蘇	春	露	桃
友	影	省	梁	江	学	尺	耕	堂	坡
宇	一	為	。亞	。興	鷗	菅	天	雪	五
洋	申	頂	漢	道	里	六	回	蓬	橋
士	奇	二	可	。重	淡	禹	葛	浮	鳥
明	鶴	屈	盈	厚	路	門	也	舟	旭

昌	松	藤	蚊	菊	竹	為	青	伊
作	国	壽	山	所	芝	翠	川	賀
春	其	梅	竹	推	涼	對	。素	。若
暉	白	彦	之	己	溥	雪	因	翁
曉	渙	斧	丹	月	梅	霞	敬	。若
浦	舟	杖	霞	耕	六	外	叟	來
里	六	鷺	青	来	楚	雍	椿	伊
朝	車	洲	芝	宗	山	道	堂	執
宗	野	居	南	古	梅	李	連	。博
雨	度	夕	阜	如	堂	東	三	良
岱	典	桃	兩	一	宗	淇	菊	。羅
朗	踞	彦	木		巴	石	守	外



木朶	東陽	咲菊	梅同	魚堂	松兄	塩叟	蒲雪	卜蝸	寸陽
卓池	呂川	而后	足彥	卧央	白國	宗居	雲三	千年	巨洲
梅老	鮪汀	少汝	茶陵	羅城	士明	尾張	虛舟	翠川	月蕉
秋拳	姜濃	路郭	紕	岳輅	方明	曉臺	介立	梅樓尼	雁路
踏莖	蛙春	大算	竹有	昆明	岱青	也有	杉廬	應崑	烏草
木芽	三河	我竟	宣彦	塊翁	挂五	白尼	也六	省吾	艸友

漫々	露竺	松蘿	烏扇	玉珂	龜鱗	洞々	岱松	春鴻	流芝
平歡	丈水	雀角	亮儿	石老	珠山	二秀	豊水	葛三	遠江
嵐外	起石	九鼻	那謨	岩甲	永枝	蓋屋	鳥沙	叙来	五雲
臺眠	甲斐	秋菜	麦里	鳥流	東湖	李翠	薰岱	雉啄	駿河
蟹守	可都里	江水	東玖	芝得	隣松	棠憇	一愷	豊女	石蘭
如松	摠村	長羽	龜洲	鷄山	雉扇	雲舍	縣々	九二	相模



巨冰	時喜雨	其翠	丰人	微席	伯先	梨翁	柳庄	吐雲	百二
斗山	桂枝	風芝	仙	真蕙	信以	龜丈	獲龙	<b>冠</b> 浮	百慈
蘭窩	奇石	麻直	松井	虛白	少根	故園	文兆	儲吏	真恒
名恒	大常	草均	鹿古	<b>加賀</b>	素藥	奇峰	玉蓬	步簫	團亭
聖人	五葉	年緒	甘谷	千代尼	菊成	八朗	可厚	<b>信</b> 濃	秀哉
三兔	湖山	真澄	束心	眉山	何九	雲帶	希言	孫彦	

昇魚	秋帆	梅笑	其興	蓬松	<b>越</b> 後	席曉	背月	百年	<b>能</b> 登
此江	旭踏	呂水	旭浪	莊二	踏丈	伯芝	百甬	知龜	寒崖
乙老	李宙	卓二	東陵	石海	宣啓	く子女	因雅	魚笏	<b>越</b> 中
<b>佐</b> 渡	田都善	負風	東峨	吟糸	尤琴	逸英	昔峰	北冥	嵐丈
良談	夜江	菘卯	二川	五雲	由都留	雲幸	東一	五湖	吳山
<b>出</b> 羽	知及	巢也	弄山	於久母	三營	鳥命	甘行	軋丈	蓬山



遲月	扇風	文夕	露中	柿丸	義香
仙雅	文夕	常陸	道隣	岸根	
舊月	得雨	仙雅	露中	柿丸	義香
爲代女	素夕	桂裡	紫山	如山	紫明
爲美	買月	旧友	東芽	丈兆	冥々
雪市	嵐庭	壺山	与人	繁里	加丁
三子女	鷄路	雪堂	平角	夏南	布席
乙二	雨考	雄淵	寬兆	素龜	且々
大芝	宮菴	崇居	鉄舩	乙因	根教女
淋山	衛足	陸奥	白居	貞松	國南
長翠	五明	野松	渭翠	河道	五貢

牛乳	笙々	青岐	廣陵	素琴	長湖
存阿	菊如	恒丸	雨塘	梅史	素迪
百羅	其石	中雄	悅二	仙舟	下総
鵬翅	安房	杉長	素共	素水	平雄
輪之	三化	渚凌	梅月	知方	里丸
淡高	嵐兆	茂本女	上総	但言	潮陵
東季	掃石	真彦	雨麥	泉之	無長
李尺	松江	昭眉	三有	蘭魚	雲守
利根古	山有	藏六	千重	竹雪	万丸
山子	文蝶	聽雨	風實	霞浦	

序十一



雨色	柳心	月鴻	阿了	茅丸	上野	椿海	巴蚩	李峰	普記
國村	喬細	竹溪	輪聖	旬光	羅月	如翠	魚之	桂丸	嵐文
可來	巢兆	浪管	鹿太	九雀	浦人	濂川	素考	柳翠	鱗々
五石	星布尼	可良	川二	雞周	壺半	陶里	兔水	下野	鶴老
東圃	也好	米室	巨屏	桃几	朴哉	柳起	芳竹	魚文	永遊
麥穗	菓	武藏	女	茂	松司	悠居	北岱	厄	厄

得阿	年守	觀海	采砂	夫山	古玄	岩翠	有莪
曾逸	和調	一步	乙海	寸艸	魚連	周里	呂律
扇賀	兼歲	耕雲	榮子女	樗白	梅溪	双鳥	是翠
雨蛤	樂山	東壽	谿存	琴女	石鷄	太良彦	燕巾
江戶	少年	為梁	梅夫	一雨	白度	南井	五緇
存義	岐山	道也	水佳	周居	南鵠	樂水	貞秀
	峨山						
	喜篤						







扇和	亭馬	春葦	風谷	黑谿	らゑ女	應々女	草丈	虛舟
北賀	里外	<small>少女</small> ち	為徑	而男	輕子	何々女	南汀	碩高
五陵	千周	太節	芳居	訓山	車兩	尸々女	竹馬	燕陵
利雲	交樟	桃生	宇橋	成之	仙技	乎馬	榮枝	淡水
萬里	粟浚	山松	鹿阿	季道	仙骨	詠婦	不響子	其堂
芳洲	武山	不木	杜英	松丈	桂羅	楚遊	雪房	明良

加通

原水	岨翠	文蛤	伊豆	馬雪	素樸	久城	李江女	羨山
平山	斗圍	下総	一瓢	杉枝	秋耳	月一	来賀	有月
武藏	安房	千丈	相摸	松江	節志	新賀	子明	雞羅
不玉	越見	麥典	和夕	其翠	嘉川	石馬	吳秀	心非
李川	下野	笠雪	加賀	翠喬	光人	蟠	司馬女	盤布
其好	曉鳥	守一	士峰	礎太	箕青	江川	<small>徒女</small> 麥洲	春來



春目錄

佛	人	萬	吟	初	御	正	立
座	日	歲	積	夢	降	月	春
飾	七	傀儡	穗	着	初	枕	初
焚	種	師	俵	衣	鴉	保	春
養	若	猿	太	書	若	元	今
父	菜	屯	箸	初	水	日	朝
入							春
御	齋	子	水	門	初	初	御
忌		日	祝	杏	曆	日	代
							春
春	芥	小	羽	蓬	寐	初	花
寒		松	子	菜	積	空	春
		引	板				

目録

目録一

目録



澄	二	猫	百	草	松	散	東	凍	余
槃	月	戀	千	前	花	梅	風	解	寒
彼	衣	白	鳥	莖	木	柳	春	長	春
岸	更	臭	驚	立	芽		風	閑	雪
西	初	蛻	雲	露	若	青	福	陽	淡
行	午		雀	薑	草	柳	壽	炎	雪
忌	事	海	駒	土	春	梅	草	糸	殘
水	納	苔	鳥	華	草	柳		遊	雪
口	薪		鴛	草	下	椿	梅	霞	雪
祭	能			若	前		月		解
二				葉					
日									
灸									

種	蒜	蕨	菜	芦	連	紅	山	臍	出
印			花	芽	翹	梅	笑	月	代
種	蠶	杉	大	葭	五	花	山	臍	貝
漬	纒	菜	根	子	形	待	燒	夜	寄
鹿	摘	薺	獨	篠	蒲	初	燒	春	鳳
落	草	花	活	子	公	花	野	夜	巾
角					英				
泊	畑	五	山	接	薊	初	春	春	春
山	打	加	葵	穗	合	櫻	野	兩	日
		木							
朝	苗	枸	早	指	茅	糸	春	春	春
		杞	蕨	木	花	櫻	水	山	月
鷹	代								

上

目錄二



花見	花雲	春霜	雛	三月	和布	蛙子	雀子	巳鳥	雉子
花守	花曇	別霜	夕于	弥生		蛙	初蝶	鳥交	春雁
散花	花曇	永日	永生念佛	上巳		墓	蝶	鳥泉	滯雁
櫻	花雨	遲日	峯入	鷄合		蛇出穴	蜂	春鳥	曳鳴
山櫻	花雪	春海	炉塞	曲水		田螺	蛇	鳥轉	引鶴

蠶	鳥入雲	葱花	藤	八重櫻	海棠	海
暮春	麥鶉	三月菜	馬醉木花	遲櫻	木瓜花	散櫻
	若鮎	青麥	董	辛夷	山吹	挑
	蛤	茶摘	女子草	梨子花	躑躅	
	蛭	喚子鳥	水艸生			



夏目錄

若	若	盧	夏	夏	葵	團	綿	立
楓	葉	橋	月	書	祭	扇	拔	夏
牡	青	柚	夏	昼	大	燭	裕	四
丹	梅	花	山	寐	矢			月
芍	櫻	茨	夏	短	灌	新	夏	卯
藥	實	花	川	夜	佛	茶	衣	月
葵	葉	<small>さくら</small> 花	卵	明	花	青	日	青
	櫻		花	安	御	さし	傘	簾
嬰	葉	檨	桐	夏	夏	筑	扇	更
粟	柳	花	花	夜	篔	摩		衣

粽	五	蚊	子	蝙	鷓	杜	麥	夏	苔
	月		子	蝠		鷓	川	木	花
苜	幟	蚊	蜘蛛	蚊	鷓	老	麥	<small>常盤木</small> 落	杜
蒲		遣	子	喰	飼	鷓	秋	菓	若
苜	飾	蠅	蛭	蝸	松	烏	茄	松	鷓
浦	太			牛	臭	鳩	子	落	尾
酒	刀							葉	花
帷	競		毛	枝	鮎	割	覆	<small>竹筴</small> 落	木
子	馬		蟲	蛙		葦	盆	葉	艸
						鳥	子		茂
半	印		蛭	蚤	鮎	行	鷹	筭	木
夏	地					子	入		下
生	打						時		閣



六月	鬼子	鶯音入	澤瀉	紅花	姬百合	柿花	竹植日	夏雨	梅雨
水無月	螢	水雞	蓴菜	藻花	夏菊	山梔子花	若竹	早苗	梅雨晴
冰室	照射	蒼鷺	川骨	苧	撫子	紫陽花	合歡花	田植	五月雨
夏冰	火串	鶴	蓼	真菰	酸醬草	南天花	檉花	早乙女	五月雨
富士詣		鳩浮巢	鹿子	青芦	十藥	百合花	栗花	栗痔	虎雨

翡翠	野	綿花	夕顏	汗拭	水飯	月涼	雲峰	土用	祇園會
蟬	青田	瓜花	昼顏	夏瘦	心太	納涼	夕立	虫于	祭
夏虫	田州取	瓜	葱	百日紅	一夜酒	清水	青嵐	暑	鞍馬行伐
灯取虫	川狩	夏芒	葎花	凌霄花	蓴	晒井	風薰	夏日	施米
御後	羽拔鳥	夏草	麻	蓮	竹婦人	葛水	涼風	炎天	雨乞

上

目錄二



名越紋 茅輪 秋近 復景

Blank page with faint bleed-through text from the reverse side.

俳諧新五百題卷之一

田喜壽護物輯

○春之部

立春

春の山や林ささくけり木の先  
ニワのままにけり顔のまよふ  
春うつくさや花も用はば  
とるまよふまよふ花の横は  
まよふつ花の下にけりまよふ  
鳥の羽まよふまよふまよふ  
初まよふまよふまよふまよふ

士朗 丘高 長齋 一瓢 五折 携良 緩駕

初春

二

一



今朝春

たけのこや板戸舟の菜大根  
初らうや出歩り先づ親子  
日のしとらさるやきまーしこのま  
人の親のみうんえりーと親のま  
おふの係よ出ま務りまのま  
まよいぬ人ーとふーと親のま  
山崎ぶい子持りーま侍の春  
くさる子持又も名じりう侍のま  
歩代のま男と年ハおくらり  
東人のまをいけとて侍代のま

太郎彦  
雉啄  
榊八  
松兄  
蛙春  
樽雄  
南井  
如泥卿  
貞松  
玉光

御代春

花春

まのまおれおれまのまのま  
月のおまおれまのまのま  
まのまの子のま眼かまのま  
花のま羊からけのま奥あま  
まのまのまのまのまのま  
氷仙のまんかまのま時月  
西月まのまのまのまのま  
西まのまのまのまのま  
春まのまのまのまのま  
正月のまのまのまのま

蒼虬  
屋鳥  
浦人  
一蕙  
瘦菊  
みろ彦  
乙二  
葛三  
升六  
寛兆

正月



位保姫

位保姫の弱しよまぬく鼻毛の  
さほ形やくほとえ送る財の上  
位保玉めよまぬくふや扇子打  
さほ姫や鏡くくくさ枕  
さほ心先はほくまを糸をさう  
元日やまのふよまぬくおひけ  
えりかりのまぬお新座  
えりの扇さうまぬおのさの  
えりかかく二口のまぬけけ  
えりや苗さうまぬお面白さ

崇兆  
葛三  
旦こ  
叙未  
仙雅  
移竹  
開更  
春鴻  
雪雄  
樵村

初日

初日朝さうぬ少田の鶴のゆめ  
日けく知神ことさきま鳩二ウ  
おほ事さや前う扇もさす初日  
おほまふ涙よ伊まの初日の出  
初さやみ越くくま灯をまぬす  
初さやち掛うけけの日の光  
扇の扇の初ささうのほま水  
初さやまをさうの信花ふま  
初さかまおさうの松子まぬさ  
初降まぬまぬまぬまぬまぬ

芦舟  
菴十  
輪之  
美く  
美く  
星布尼  
孤山  
幸雄  
し二  
鼠大

御降

初降まぬまぬまぬまぬまぬ

鼠大







初夢を夢みて酒の心とらふ

光堂

うつ笑の旅病も枕せしむる

棧車

初夢やさきそ扇より

女子依

仕合と酒をさしやきそ

尊三

うぬ衣の昔もろや来そ娘

其芳

書 初

書初は史邦の漢先出

本多

松の画に松の笑く人書初

志士

娘の子の何え方そ

鯉尺

お立く人の舟さん小家

斗入

糸人のものよるん

雪雄

門 松

河東院も妹はまふれつ門の由

袁了

耳の年のを本は原のつ

石芝

あてくる世も見る久し門を

暖河

つはめも糸を葉も父と母

亀六

菖蒲も来つはうる雪の歌

畔鶴

菖蒲もうらけもの、極の句

菊所

菖蒲もや禱かゝる分り子

玉蓬

菖蒲もおりのき

素龍

らしはほももの斗やを

全彦

冷つてもおくり漢の紅世

梅壽

菖蒲

喰 積



穂俵

穂くさくさや志の芽よ、波も時よ

二

太著

古々のるむれ白けや、木人友を

護物

水祝

古々のるむれ白けや、木人友を

下任

羽子板

一村の沙汰まをりく、水後氏  
涙くく、見以負ふく、く、い、く、  
や、羽子板、月の中、く、く、く、  
く、く、く、く、く、く、く、く、  
く、く、く、く、く、く、く、く、

古樂  
花狂  
蓼太  
寥松  
三化

萬歳

羽子板よ、く、く、く、く、く、  
万葉よ、持、く、く、く、  
暁を、く、く、万葉、く、  
万葉よ、く、く、く、く、  
美、く、く、く、く、  
万葉よ、く、く、く、く、  
暁を、く、く、く、く、  
万葉よ、く、く、く、く、  
大津路の昔、く、く、  
く、く、く、く、

け、  
緩、  
さ、  
樂、  
豊、  
護、  
吐、  
一、  
三、  
渡、

傀俱師

大津路の昔、く、く、  
く、く、く、く、  
く、く、く、く、  
く、く、く、く、  
く、く、く、く、  
く、く、く、く、  
く、く、く、く、  
く、く、く、く、  
く、く、く、く、  
く、く、く、く、

渡、  
風、







若菜

七くさの門は松くさくさ下結の香  
仲はらぬの菜よりゆき畑のくさ  
雪うちち男のほくさくさ菜の家  
雪くさくさ尺ゆき菜の穂も家  
つらねゆきくさや菜鴨も雪る  
ゆきゆきぬきくさのつらね舟  
秋穂くさくさくさくさや菜くさ  
舟穂のくさくさゆき菜くさ  
際丸の菜くさくさくさ菜の夜  
かき船葛くさくさくさくさくさ

敬叟  
完来  
雪堆  
露中  
可象  
ちくか  
し二  
春堂  
莫二  
古玄

藟

芥

くさくさや芥もてゆきくさ芥の丈  
鶴の嘴ゆきくさくさくさ根芥くさ  
雪くさくさ風のくさくさや芥畑  
芥はくさくさくさくさくさくさくさ  
日のくさくさくさ芥田もくさくさくさ  
ゆきくさくさくさくさくさくさくさ  
ゆきくさくさくさくさくさくさくさ  
芥の丈くさくさくさくさくさくさ  
くさくさくさくさくさくさくさくさ  
くさくさくさくさくさくさくさくさ  
くさくさくさくさくさくさくさくさ

保吉  
諸九  
雨塘  
且く  
且介  
春樹  
素考  
胡準  
文貫  
尺艾

佛座

飾焚

二  
一



人やはむ飾禁あるいさ山田  
 かさる舞て花水橋も霞より  
 か一蝶も出とめてをく飾く  
 春の父入ぬ枕の返りる百よを  
 や娘入やうくえゆるさりの  
 教ふやけ睡りりきく連の  
 菅父入や幼うらの山いり  
 やふいよりみく睡り菜飯ふ  
 かに女や糸ををくうるあは  
 うら水をよけて通さやあきの後

雪中  
 雪人  
 黙翁  
 白雄  
 万和  
 木朵  
 上卯  
 奠つ  
 蕪村  
 重厚

御忌

待未うぬ暖かかーあは七日  
 旅衣脱つてあきよをさうり  
 土の筆はむお染さけしあきの後  
 春七とて昼に採るあきのまきさうり  
 早とて川水田はあてまきさうり  
 果とてやき後の東市やまきさうり  
 中物もまきさうりあきやまきさうり  
 公孫の不性よあき余えさうり  
 土新よ胡粉のさうり余えさうり

外六  
 午心  
 魚太  
 碓太  
 雪堂  
 三磨  
 壺羊  
 連新  
 高駒  
 道隆

春寒

余寒



春雪

尻さきふらふや余まのり 煙 玄蛙  
 泥亀の白くさき余まのり 女李江  
 推のまは耳ふらふや春の雪 呼一  
 消らるもふらふや 平角  
 老朽のまのり 柿磨  
 月ふらふけふらふ 白養  
 東のまのり 政二  
 山にまのり ちの丸  
 淡まの押まらけふらふ 新雪

冷雪

残雪

雪解

冷雪は吹草の風は尻さきふらふ 何龍  
 消らるれ雪ふらふ 士朗  
 淡雪や茶山を家の焼き屋 五明  
 流はまのり 百翠  
 残雪やふらふのまのり 産物  
 白波ふらふけふらふ 蘭更  
 雪とけのまのり 杉長  
 物りふらふ水も雪解の力なり 義香  
 駒のまのり 平歡  
 山にまのり かのけ



















噴いて川先出るや春の毛

鷺雪

木の毛もさるもくも其さるも

石芝

木芽

桐の芽も花も一葉の枝も似ん

春竹

日の入れむくも春のしる木芽

一葉

力のはげや白の枝も木芽時

白年

合秋の芽もあつたも木芽時

隣松

木芽うへは持てぬも木芽

樂水

若草

ワケ村や花もさるも木芽時

遅竹

もくもや少くも木芽時

巢北

も春のや花も押さるも木芽時

さる雄

春草

春草のうへははるる口敷く春

晩臺

さるははの限もさるも木芽時

乙二

年よれく春も花もさるも木芽時

寄洲

線ももくもさるも木芽時

鶯登

山ももくもさるも木芽時

ち地

下萌

下萌やこくもさるも木芽時

春樹

下ももくもさるも木芽時

竹馬

下萌やもくもさるも木芽時

草夫

草萌

草の戸もさるも木芽時

乙二

春のもえ花の後のもくも木芽時

星譜







百千鳥

堂子似し似ぬ鳥よ 百千鳥  
折つても月口ろ雁もそ 玉ふ鳥  
屯の屯を屋をくくも 百千鳥  
花もすてや口口や色 百千鳥  
人のまはせや山のふりて 百千鳥  
きと田二の堂もすの 小笠くね  
羽もしくも堂もすの 小笠くね  
然るまにくも堂もすの 小笠くね  
堂や山の堂もすの 小笠くね  
くはせくも堂もすの 小笠くね

士朗  
博堂  
保吉  
花笠  
曾吟  
瓜坊  
万和  
蟹守  
古良夫  
まき

鳥

雲雀

ふくくやや雁くくくすく二人連  
かき雁翼も南くくく見  
雨の日も一度はくくく  
兔角くく系くくく柳雀  
風やそ勢くくくくくく  
弱きや峰くく雲をくくく  
弱きや竹籠のくく口より  
立旅のくくくくくく  
山依り後つきくくく  
弱きや喜のくく紫のくく梢

春鳥  
ノ且  
可厚  
瘦菊  
石芝  
柳居  
保吉  
栄枝  
雪彦  
獲物

駒鳥



鸞

うそ竹や梁ハ破きく夜つ  
興ふくや木うれそむる梅窓  
野のふくもかまう人暮のあ  
くそ竹や畑をうれの五年相  
共ふくや櫻のうららの鼓と川日  
さゆえくそ描も虫のむい月  
春の白紙私を白く任との虫  
垂れ柱や竹あそびくうう  
けけりいくらよゆ火の描小  
猫の書や蒜くううううう

圖南  
宮子  
蒼虬  
何さ  
さう雄  
士朗  
可起里  
ノ且  
岳轄  
輪之

猫戀

白魚

白魚のすくーはくそき案ん  
白魚も世をぬくしを眼の悪き  
志く魚ハ水のぬくひう蓋もの  
ふ魚ハはくうううのあまか  
志く魚の目とてふくもかまう  
むくもハおのこふく志くく  
湖も親ももちうううう  
土たり任まううううう計  
中あやて風情さくすぬ蓋の蛇  
福さくはま蛇のううううう

成美  
蘭更  
玉光  
姜じ  
竹里  
昆明  
渭翠  
壺羊  
子彦  
子彦

鯉

Handwritten notes and page numbers on the left margin of the left page.



海苔

海苔はよく酔くしちかしく  
菴の夜は海苔火とるを文とく  
透るをさかふるは海苔の中  
もさかしく海苔をかきく海苔の植

乙  
升  
津  
首一尺

二月

花はさきもさきけききき二月は  
やう本の曇るはすく二月は  
舟唄の瘦くさかしく二月は  
ふふふふふふふふふ二月は  
畑とらふふふ二月の林麓の南

琴片  
一月  
吟系  
卓者  
賞寫

衣更着

さしはさくや唐へも解ふ袴の  
衣更着やあまの家のあか  
まきくおやをよきく小高い  
子はさきは日のまきく  
衣更着のまきくやいつ立子も

子更着  
東鶴  
壺子  
菊守  
梅史

初午

初午やあまの種はさき日の  
初午やあまの種はさき日の  
初午や江戸一ふのくら家  
初午よよ様くよ寺ワ  
く川中や幸の田井も乾く霄

蕪村  
芳之  
鵬急  
梅寿  
胡準



事納

位船もさよく成やるりおさ先  
常も取くくろりの小豆粥  
馬部もとりり立りり奉納  
芝能の火けさるよや町さるも  
芝能や用ふるはありの二人あて  
考代よ立りり能のあふりり  
芝能やぬくさあちる様の上  
涅槃もやあらくくつははるも  
祇く人さるも世のあらるし花  
涅槃もや時月も愛のぬくも

舟長  
素共  
護物  
仕侯  
林下  
琴亮  
貯江  
月化  
巢兆  
小季竹

涅槃

彼岸

涅槃像大なるもし降かき  
云くく吾もく口法くく涅槃の日  
あ梅いさ先了彼岸の入りり  
うれくもるりも仕まぬもらんう  
紫の戸能苗まよ法岸の入りり  
小奥ける梅あひんの人通  
新るもや彼岸も入り枝  
くよくも不二の婿のはるも  
青柳や月も佛も十五日  
く新の船路もや西行忌

知龍  
藏六  
大江丸  
万和  
蓬山  
亀山  
孤山  
菊也  
羅文  
寿翁

西行忌

七

六



水口祭

よーや世の杖きりあそびこの夕  
いのちくくよふく小夜の茅花餅

曲阿  
輪之

二日灸

藤の並の水口をせぬ畑とら  
あふりや水口むらり口け菅

護物  
升六

野りも志くぬ旅宿よ二日灸  
二日灸牛の体く、休けもり

五由  
長羽

二日灸イサヲ終田よ一火焼く

輪之

二日灸角力と川とる男ど

果山

出代

出代の馬くもりのりくおま

五明

貝奇風

土代やふそりより大田炒裏  
寺所や菰穂赤くよ出代寸

梨翁  
全長

出代とくくくくくくくくくく  
貝とまよむくくくくくくく

金菜  
全以

鳳中

貝とまよむくくくくくくく  
切くやるんくくくくくくく

護物  
曉臺

巾、けて赤くくく夜の柱ど  
夕暮く集りくくくの中すくく

士朗  
梅價

川ゆくの暮りくくくくくく

鷺洲



上

サ

春日

菜畑の中はあもれ中のえ  
 ちりのりや中もれかたの春  
 春のりや蕪抱らしの苗も菜  
 賤かゝも綿子つれての春日向  
 うくくや春の目け乃片割もて  
 中峰きの拍子とろけも春のり  
 片共くるるよ春のりくく月  
 ころれく水田のくくの春のり  
 扱菜よむ蓮もくよ春のり月  
 葉無もくもれくくや春のり

みるき  
 葵亭  
 也好  
 李尺  
 石充  
 碩翁  
 喜翁  
 蒼虬  
 其翠  
 五石

春月

朧月

春の月少も白よて昇りり季  
 猶みて廿日何くくくく  
 おほろ月え来ふも有明ぬ  
 長男けよ舞も出くく 月  
 猶月い戸く味等の盛くあ  
 有明くくくあもくく 猶く  
 猶あや蓋長くくく 月化  
 おほろあも百姓町のか 厨  
 縁あも絹くくく 買月  
 湖くくくくくけぬ 籠

清素庵  
 士朗  
 草阜  
 石雞  
 輕舟  
 普成  
 月化  
 みるき  
 買月  
 さくら雄

朧夜

上

サ







焼野

志のたよる降出す焼野

蕪村

川越てまのふく焼野

蘭更

草の戸のふく焼野

葛三

焼野のふく焼野

碩布

春のやや焼野

みら貴

春のやや焼野

竹枝

春のやや焼野

旧友

春のやや焼野

嵐丈

春のやや焼野

月居

春のやや焼野

瑞馬

春水

引くる芹の古根

雪雄

草まよ木まよ

石蘭

懐より南へ

乙二

赤梅は家

士朗

紅梅は家

斗入

赤梅は佛

成美

赤梅は佛

芳之

赤梅は佛

炉扇

赤梅は佛

羨ら彦

花まつ

葵亭

紅梅

花待



初花

月進きあるよ花を待夜う  
ほとくくむをまつくろら店  
を待人の書あし山の家  
初花よこつあもあのみい  
く川系やまろくはまや  
初花や翠の葉よん老木よ  
初花ぬ仏もねく告  
初花や紀の園さるるてくれ  
ろつはらろ花の世の中よ  
くそ花の脊やねきう初花

士朗  
圭  
楚狂  
保吉  
菅三  
東芽  
千力里  
梅夫  
樗堂  
可都里

初櫻

糸櫻

連翹

く川さるく濱のきよハ宿るを  
きけけいせまよ初花や  
ろまあやすき日あまの初花  
雪くし傘うろささ糸さる  
名く死く人の城あまいとさる  
連翹や野の草鞠のうけを  
連翹の葉ハさえぬよむの時  
夜くるハ連翹志をる一亩花  
連翹や御の子ソれよ  
連翹の花よろくぬ月夜糸

陶里  
雪度  
護物  
石芝  
一亩  
巢北  
蒼虬  
万和  
一蕙  
木木



五形花

物ゆくー代々けのらんけふ

今夕

里のけんけふを津波の日もそん

梅壽

大根の葉もはやくーらんけ咲

曉河

蒲公英

せん河や管提灯の下くく

春鴻

蒲公英や飛よりく人の里の春

みん

五人ほくや一日もゆる茎とむ

乙二

番公英やワむむをるも月日歌

せし

くんげの咲や中の赤山の松

石足

ササ

ササ花を 藤よりくむ耕地

瘦菊

さくると口のる 岩や 系 刺

桃坡

ササ花

やうくひや梅をさてササをぬく

可都里

泣ぬるあくくも連んせハサも

月居

山雀もくくま度、ササをよ

狐山

はくく病猫の目細く飛つて

曉河

ササ花ぬらん花のうけゆるま

碓嶺

水くこの花も情まむわりの角

沙笠

ササの芽はふくく葉や一葉

みん

一ふーのこをまぶさーやササの角

壺羊

ちんさくてくくも何やササの角

露壺

ササの芽や舟をく福よくものほく

石芝



葎子

北山の古去池や葎子く

みち

篠子

葎子折て楚もよあや女房を  
すのりやけ一川ハ並六

六倉  
秋拳

篠子ぬくまきいもく一嫁の若

女房

そく此子や伏屋のまも一夜は

護物

接穂

庭中まのり酒む接穂か

白雄

しき穂きよと新く起す雀と

羅風

ほろま子のふふ接穂の葉のま

素曲

春ゆりぬ接穂の葉のま

窓雨

つぎはうり大木サのぬ植く

荷乙

指木

けし木く子く新く

蒸水

接穂く物ま深き古山

碓嶺

菜花

接穂の菜花二日はまのま

桂五

菜のむや煤の古家初く

烏翠

あのもむやうそくそく月の暈

對雪

甘菜のむよゆまくく目白く

表丁

なのもむや小ねくくゆの

草均

大根花

活大根花をまて花のゆき

東圃

押曲はあかまき大根さ

草

獨活

くこのサカヤ道くくあ口は

茅膏



山葵

をく霜の春まけくくこの言

瘦菊

山葵の葉もつけさふ山葵うね

鷗里

山葵の葉もけつて山葵

興洲

山葵の葉もけつて山葵

一肖

山葵の葉もけつて山葵

護物

早蕨

早蕨や十日の早蕨の指

存長

早蕨や十日の早蕨の指

玉珂

早蕨や十日の早蕨の指

旬光

早蕨や十日の早蕨の指

美辰

早蕨や十日の早蕨の指

厄印

蕨

土を土く市は二寸の蕨うね

儿董

小ねの葉もけつて山葵

大江丸

日水もけつて山葵

蓬拙

蕨もけつて山葵

竹雪

蕨もけつて山葵

麥穂

萩菜

苗おの葉もけつて山葵

巢兆

蕨もけつて山葵

朶年

蕨もけつて山葵

東鶴

蕨もけつて山葵

茅鷹

蕨もけつて山葵

護物



薺花

乙二 乙二 乙二 乙二 乙二 乙二 乙二 乙二 乙二 乙二

乙二

五加木

梅價 杜蓼 一肖

杜蓼

枸杞

九霍 馬雪 政二 恒九

九霍

蒜

九霍 馬雪 政二 恒九

恒九

藜蘆

嵐丈 久仁 輪之 鶏周 龜丈 南井 箕音 蕪村 希成

嵐丈

摘草

嵐丈 久仁 輪之 鶏周 龜丈 南井 箕音 蕪村 希成

南井

畑打

嵐丈 久仁 輪之 鶏周 龜丈 南井 箕音 蕪村 希成

蕪村



上

下

畑くちわ和日あしりくひ子香 義香

くちわのさしりくひ子香 岱李

わさしりくひ子香 碩翁

春のわさしりくひ子香 保吉

苗代の夜も和水の乾りもさよ みる炭

苗代や鶴場をよけてあつね 可磨

新代もつとあつね けん

古川の流もよりや種おろし 蕪村

めくくはしりくひ子香 多磯

はくくくひ子香 春鴻

種 卸

種 漬

種漬やうすりの竹よ敷根川 春耕

種漬の竹よ敷根川 一鷲

鹿落角 麻先て列布子角をさしりくひ子香 保吉

と落と角を臭けり女麻くち みる炭

角落てくちりけり魚 蝶夢

係もぬさほし麻のやり角 みる炭

わけかのや系角以てのなる麻 護物

泊山 謙修のぬさほし麻のやり角 みる炭

折安もかきくち保のときり山 瘦菊

一体の和敷をさしりくひ子香 玉光

泊 山

上

下



朝鷹

月よこ建一房をん 泊る白

護物

朝鷹や毛をいしをんおの上

五橋

朝鷹や見くく風の吹くじく

之化

雉子

書よこや一夜雉子の山いり

暁臺

立りておれおのりくさよ雉子の書

岳輪

朝さしのお葉をかきりけけ鳴

方馬

あしきばかんのゆゑ雉子うぬ

風芝

鳴雉子の村戸もゆゑ茶飯

都久母

春雁

さくばしとさきとを根ちんまの房

春鴻

房くくくく向くなくまの房

奥堂

帰雁

帰る日の何よきはゆり子とはの房

守豊

つらばよおけら望ゆく門の房

子信

一房立て休はくある汀の房

梨直

おの葉やん合く一房のつ

霞外

一羽はくまき屋くくは房の

暖河

浦島く約くくはくく之おけ

可良

帰る丁書かけけあるまもせん

有我

曳鴨

小田よあるるんてもまぐハ鴨うぬ

乙二

川鴨や朝風はくく舟のま

胡集

曳うもの象葉あうん米田い

東鶴



引鶴

老松木の風をきく鴨の連なり  
右のうへへ飛ぶを鴨の連なり  
才のうへへ飛ぶを鴨の連なり  
序をよめるを鴨の連なり  
字を一まゝするを鶴の連なり  
引くや美くするを鴨の連なり  
引かすを鴨の連なり  
乙の草をえりてを鴨の連なり  
ほくらを鴨の連なり  
乙を鴨の連なり

ちり  
護物  
笛  
竹見  
野江  
涼氏  
玉光  
蓼太  
士朗  
榎来

乙鳥

鳥交

鳥巢

乙をふよめる巢かきふそ古火桶  
小を以て宿もするを鳥の連なり  
夜中家ハ粒恒小をさるを鳥の連なり  
うらむ手杖や小を鳥の連なり  
木葉焚くを鳥の連なり  
田へ行くを鳥の連なり  
さるを鳥の連なり  
巢をかくを鳥の連なり  
何をもかくを鳥の連なり  
鳥の巢をかくを鳥の連なり

嵐丈  
石芝  
右雄  
守三  
危印  
闌更  
乙丙  
葛三  
徐覺



春鳥

ついでに葉をうたふを春の園

西塘

梅ちりきり春もさや川を流

みづる

流和らけや川を流を想赤花

李長

赤色く又列を流を想くらの鳥

静山

鳥囀

啼くそとを流を想くらの鳥

芳之

新れりや啼くそとを流を想

根荻

本への鳥啼くそとを流を想

文兆

鶯の雨もさやけりて流を想

枕元

雀子

雀子や春の鳥を想くらの鳥

百明

春の鳥を想くらの鳥

由都苗

初蝶

子をよぶ雀の鳥を想くらの鳥

乙二

雀子の鳥を想くらの鳥

木海

葉雀よぶ雀の鳥を想くらの鳥

伊扇

く川を流を想くらの鳥

白雄

初らやわらけりて流を想くらの鳥

得雨

く川を流を想くらの鳥

志中

初蝶や春の鳥を想くらの鳥

女房

初らやわらけりて流を想くらの鳥

瀬梁

初らやわらけりて流を想くらの鳥

佛仙

おのく子のやわらけりて流を想くらの鳥

北具

蝶



蜂

翁上蜂よりく集り菴の取  
花よしのつひそをまきこころよ  
大風のやうに集り出る胡蝶の如  
蜂の集りも人よりのめをる軒下  
くらの草花何不足ましくはるこ  
三日月や花は蜂のくくく  
葩のよほひよくたつ蜂のあ  
巢は蜂の窠子くく出入り  
かいらまきと集りえらや花の情  
雲雀笛よりく集りえらや花の情

呂律  
李峰  
石芝  
白雁  
雨塘  
百嬰  
羅道  
謹物  
けん  
土光

蛇

蛙

くろ子の牛は嗅ぎて家へけり  
蛙もやてる日よ水のむつま  
蛙ももねあまらるるくまへ  
鳥よあまる世にかりや久よの子  
久は子のちくく集りえら  
舟へけりくくやうき田の夕蛙  
松陰の湖くくきこむくく  
山吹を植くくくく蛙く  
玉くその毛もくくくく  
くく旗の葉田よけり蛙く

葛三  
月化  
可磨  
芳居  
石芝  
典例  
菊吟  
衰丁  
故園  
陶里

上

下



巻

あしこの本の門の巻をすす夜

輪之

巻をくや膏の山毎のさくく

義香

巻をくや人の村の宿のさく

緒

巻をくや葉の夜とる巻の巻

越見

蛇出穴

蛇も穴出さくくくくくく

女

蛇も穴出さくくくくくく

狐山

蛇も穴出さくくくくくく

松欣

蛇も穴出さくくくくくく

黙翁

田螺

新さハ巻もくくくくくく

月野

新さハ巻もくくくくくく

樽雄

西りの杖乃乃のくくく

真澄

草鞍の巻もくくくくく

九十九

よる巻の巻もくくくくく

曉河

和布

小者くくくくくく

古玄

小者くくくくくく

亀

三月

三月の用もくくくく

政二

三月の用もくくくく

雪堂

三月の用もくくくく

笛

三月の用もくくくく

澤



弥生

鶯の聲の囀るを折 花の生る

葛之

よき花の雨や 花の生る

李東

花の刺る 花の生る

草池

鶯の聲の囀るを折 花の生る

素水

花の刺る 花の生る

白雄

上巳

白く 花の生る

白雄

旅人の枕打るもつ 花の生る

樗堂

枕の白や馬より先を枕おろし

葛之

枕の白や花の生るを折 花の生る

森樟

鷄合

鷄合 鷄の聲の囀るを折 花の生る

曉臺

勝勢のまをり 花の生る

瑞馬

揚の本を志川くもつ 花の生る

竹見

から鷄の枕を折るを折 花の生る

牛心

殿より花の生るを折 花の生る

撲水

曲水

曲水 花の生るを折 花の生る

柳儿

曲水や花の生るを折 花の生る

翠松

曲水や花の生るを折 花の生る

茶静

曲水や花の生るを折 花の生る

冷水

小娘の歌を折るを折 花の生る

空衣

終るを折るを折 花の生る

眞々

雛

雛



壬生念佛

草の戸も障をりてて能く 結 其堂  
 をりも尺ぬ世よ来り 終る 采年  
 雜立と新くくくく や小直と 雞周  
 百くくく 小直を尺くく 成美  
 ねのまじりみの 沙丁もまじり 蒼虬  
 ねのまじり下まじり 沙丁の 鹿古  
 法師んくくくも 沙丁をね日 雉扇  
 毫く子の 終まけくく 沙丁 芳居  
 間のぬく 終日 伸くく 壬生念佛 野揚  
 魁つゝ男もぬくく 壬生念佛 竹見

峰入

ねをねる 見もく や 壬生念佛 如山  
 峰入 や 茶まかきく 白雄  
 峰 へ や くく 山くく 月化  
 峰入 や 能くも 尺ぬ 人の 儿ト  
 み 峰入 や 草のくく ぬまの 上 耕雲  
 炉も 寒く 涼くく 火くく 其采  
 炉も 寒く 有 枕ま 扇くく 嵐吹  
 炉も 寒く 有 僕も 山の 井戸 護物  
 ぐりの ね 終る 係くく 三 葛三  
 まちの ね 柳の ね ね 惠編

春霜

止

入















遅櫻

ふきぬやうかむいけハミ様  
うらうら— 芳子ぬおほきき様  
ききくきりくきかききき  
引くすまうくくくやき様  
ききくききくきききき様  
あひむけくきくきくき様  
くききききききききき様  
くきくききききききき様  
くきくききききききき様  
くきくききききききき様

逸翁  
月居  
奇測  
化龍  
不木  
岩甲  
千丈  
北賀  
鳥流  
豊女

散櫻

云々ふ付てけくくの散くくく  
くくく形て類白く枕くくく  
くくくくくけくく枕くくく家  
漢へハきききいほくくや枕く花  
きき焼て焼くけまきききき  
ききくくくくくくく枕くき  
くく家やき子一おの花くき  
くくくく白くく口ききくく  
か—のく後くくくくくく  
くくくくくくくくくくく

笑九  
耳谷  
足湯  
是翠  
多代  
石芝  
蘭更  
月化  
月露  
利雪

梨子花

上

理



海棠

海棠子のむよふと海を渡る  
海棠のよきとて花はくちて直の角  
海苔のやせとてへ妻とて花の色  
海苔の虫をくしりあきけり  
海棠よりわらわらるる  
海棠のよきとて花はくちて直の角  
雪のふりて来りしとて花はくちて直の角  
雪のふりて来りしとて花はくちて直の角  
雪のふりて来りしとて花はくちて直の角  
雪のふりて来りしとて花はくちて直の角

胡華 屋島 五明 今夜 登松 文貫 雲堂 輪之 太良房 今夜

木瓜花

木瓜花のよきとて花はくちて直の角

木瓜花

山吹

山吹の泥よなるのも花はくちて直の角  
山吹の泥よなるのも花はくちて直の角  
山吹の泥よなるのも花はくちて直の角  
山吹の泥よなるのも花はくちて直の角  
山吹の泥よなるのも花はくちて直の角  
山吹の泥よなるのも花はくちて直の角  
山吹の泥よなるのも花はくちて直の角  
山吹の泥よなるのも花はくちて直の角  
山吹の泥よなるのも花はくちて直の角  
山吹の泥よなるのも花はくちて直の角

山吹 表下 表下 竹馬 石是 篤志 奇峰 百慈 素共 子

躑躅

躑躅のよきとて花はくちて直の角

躑躅







葱花

鳥とくくは其のゆく水草也

護物

冷月のまじりのほろぬ葱の花

木良彦

了福ん傳もすまて葱のむ

雪彦

牛嶋の虫をむる脊戸や葱の花

栄枝

三月菜

了中虫く又惚くや二月菜

蕪村

く入望よ揚屋くくく三月菜

柳儿

鶯くくや草のくくく三月菜

炉扇

昔夢

まら妻や佃くくく無の家

其奥

草まや後を川もる大の親

古玄

まら妻やおくくく山くも

一山

茶摘

炭焼の書かむくけり茶はくく

三省

柿の本よ瓢箪うけく茶摘ど

竹芝

はむけぬ茶の本はくくむく

一瓢

家くち出てまのくく茶摘ど

南井

山茶はくくく子持の寺這入

護物

呼子鳥

茶摘くし肩まけはくくく

卓北

くくく茶摘くくく呼子鳥

壺羊

清きやまのく肩のくく

損伏家

くくくくくくくくくく

光浪

呼子鳥お白ハくくく

桃波



鳥入雲

鳥の影へぬ春の川流やきよき

曉臺

多きよき入る竹木の光うぬ

蘭更

多きよき然るも拙じやちりし

竹馬

多きよき入るるりや固扇は

美山

一のしよきよき入るる名を

さら雄

畑もも志しぬきかき麦 鶴

左一

はくくく出て海にうき麦くく

雪蓬

雨をよきもえんもかき 麦 鶴

鶏六

むきよきは波よきも波よき 小 船

耳谷

ワ 船やちりしよきある 風う波

子雄

若 船

一きよきよき 小 船のあき 雷のき

可成

船くく片足うける 獲りか

浮舟

おきやう船んくもぬ 小 船

樂水

くはくくくく 行く 船の 下 溜りか

蘭更

船の日一 ありの 船

音川

船 船はめをくくく 音 色 船

素郷

馬刀貝の 船よきよき 力うき

白雄

順い 船よきよき 刀 船

玉光

る 刀 貝や 船 舟 夫 船 渡り 船

盤布

船よきよき 船 舟 夫 船 渡り 船

宗讚

蚕

煙

船

上

上







俳諧新五百題卷之二

○復之部

田喜養護物輯

立夏

たけのえや木屋う掃除のけり

登高

なつ川や榎さうり及ゆすれうち

瘦菊

初夏の焼酎くさすこぼるけ

芳居

なつ川や藤まはしに雲の宿

草夫

四月

ふたそそきく樹くさす四月

沉流

雪のふり来ゆり四月

由都苗

より火のたけくさす四月

無長



落しちり宿ハ小くき四月少  
 四月の一ちりまうや柏ち依  
 草自小卯月も暮む漢村少  
 花鳴の卯月曇や積り唱  
 ころへけりす卯月お山はる  
 公を卯卯月のさくら系花よ  
 九日のきい一志くけり卯月少  
 ますすれいつも月夜まをす  
 青すく色暖さくはくを  
 ちすくま山をれ思ひく

杉長  
 夢南  
 澧水  
 平雄  
 輪雪  
 蘭更  
 乙因  
 月居  
 南井

青簾

更衣  
 青簾そく小床くれそ少の月  
 ますす流志く風の吹くも  
 翌志くぬ身をて衣くえま  
 小ちや嬉しはくまて衣くえ  
 長明ち宿まてくえく文衣  
 林をるる香くく一衣くえ  
 くはくきのオハ流くや文衣  
 けくぬくやきき可き口や  
 けく抜や花のまもき年ま  
 綿ぬきや管のさくまの白

昭眉  
 路一  
 佛仙  
 巢兆  
 月居  
 爽多指  
 可厚子  
 荷乙  
 栄枝  
 箕音

綿抜

綿抜

綿抜



裕

半のもし起矢敷の多岐のせり  
何れぬ日や中林麦より葉の裕  
息すまして人のいりりふ裕  
鮫くふし男の多る裕  
ふつふするをみむのかさ  
色七色も妙の昔や交るるも  
松ふ杏るきり七日の裕  
折くは月もぬく日傘  
本半のしをぬ日  
下ふや戸口はさる日

蕪村  
冬彦  
秋奉  
素撰  
曹三  
九朴  
今彦  
如耕  
清風  
文砂

復衣

日傘

扇

團扇

ゆいさの書のやるあふ  
松のやふ扇の春  
川舟の四本志路の扇  
かてしものもか扇  
飼猪もき扇  
まのしき男の故を扇  
彩らし扇  
はの柳の葉を扇  
ふ家は扇  
ふ採る扇

春鴻  
青十  
塊翁  
莊二  
光人  
成美  
文兆  
桂五  
鳥頂  
千崖

社

社



鯛

住はぬ夜を信たぐり鯛のそ  
 朝のや櫻の一葉の土にてくる  
 子の移ぬる片守る夕色朝のや  
 寧峰の棠がまききし故能はる  
 肩紙よ透すふ山や房の松枝  
 楊のふゆも砥きは新茶ど  
 未く色しとく待宵の新茶ど  
 けしとくしとく茶のふは待る小茶ど  
 まさしーや下後事なるまきとく  
 まさしーや月のせらるの物まき

百嬰  
 竹馬  
 玉光  
 暁河  
 草夫  
 其友  
 松窓  
 其芳  
 み彦  
 一風

新茶

昔はじ

筑摩祭

昔さしーや子の子の猫かよりのあら  
 物白き白や筑摩の鶴のくち  
 うつらうき松友はつらや鶴糸  
 ぬく糸束はむ花もつらとある  
 まつらうき鶴のふる方のむらと  
 むらうき松友はつらや鶴糸  
 呉井のせらるあつらひの糸ど  
 昔もちハ日有むくや、け茶  
 さげーさや松のよのまぬけ茶  
 草のむら松のむらとん大矢敷

石光  
 蘭更  
 吐山  
 竹鬼  
 楚山  
 秋耳  
 擗良  
 瘦菊  
 竹馬  
 焚之

葵祭

大矢敷



灌佛

大矢教仏の庵と世をなれは  
青雲の撮へはるる大矢教  
灌佛やつらふ建一堂のそ  
羊くよせれて盡るまの以て  
渚の雲も夏の夜の明り  
清の生れてくよ夜の味  
いせの雲もまよふ色は舎  
日あつらふよとてまきり花御堂  
いやくとすく終りやま川市  
叶うちて一夏もよるらん

花御堂

夏籠

孤竜  
招柳  
保吉  
素因  
升六  
太節  
護物  
赤男  
梅堂  
長翠

夏書

夏よ入らんふもすれの水のちるる  
夏花わくくむくも旅たつ  
夏花の日教もええつ 傍の機  
朝をー 藤のま葉も安居時  
新波のいりを志の小夏書  
夏まきんはふさ西のうら表  
すは事の曲もふんぬ夏書  
夏どくく身も付くく魚の春  
蓋の何る井の水汲く夏書  
夏まきんはふさ西のうら表

夏書

今彦  
葛三  
冷水  
護物  
二柳  
乙二  
其梁  
光浪  
杜流  
保吉



短夜

馬かゝやそら二條起よ〜ハワ下  
 昼寐を〜ハあ〜ぬりはしや寝惚  
 筆を舞ふ〜とてさき〜むる様ど  
 う〜夜や人よ〜〜〜蟹の穴  
 経書やる〜お清〜招穀垣  
 子〜〜おの小〜〜〜松の月  
 短夜のき〜〜あ〜〜菴のる  
 う〜東の畑もは〜〜や牝の毛  
 明安く明〜雨もつ増山うも  
 明や〜〜夜〜ハ来〜〜帆〜けね

明安夜

夏夜

草のよめ家よ〜〜あ〜〜明安  
 雨〜〜もかき夜〜〜云〜〜明やそら  
 明安〜〜夜を赤子なく裏あさ  
 ち〜〜夏〜〜夜ハ〜〜もの〜〜波の音  
 え〜〜おや孫よ集〜〜ねの森  
 え〜〜の夜や系色を〜〜ぬ家もかき  
 夏の夜やま〜〜あ〜〜ぬ人かき  
 夏の月霞〜〜ふ〜〜る〜〜あ〜〜けり  
 く〜〜あ〜〜出〜〜く月夜の〜〜〜門のえ

夏月

全彦  
 政  
 東陽  
 完来  
 万和  
 掉歌  
 宗巴  
 茅唐  
 春鴻  
 豊女  
 五繩  
 一蕙  
 亭馬  
 菊也  
 以木  
 麻彦  
 葛三  
 玉珂  
 千丈  
 素籠



草の戸やおりのよき道さる夏の日  
 温泉の山比疑さる流る夏の日  
 掃切さる山比疑さる流る夏の日  
 夏山のうけおるぬきものかかし  
 赤つ山や袂さるりおす火打  
 夏山やうほさるわいの家さる  
 夏えくわ只ぬき色の山と山  
 夏山や雨さるきもさるきも  
 夏川を越す嶺さるよき家  
 赤つ川や流るえさるゆき

雉扇 東圃 里外 武陵 菊所 壺羊 加浪 玉蓬 蕪村 蘭更

夏山

夏川

夏川よかきさる先さる三日の日  
 赤つ川や二つさるさありのん  
 夏川やうきさるきさる小真  
 赤花さるさぬきや恒の幣  
 うのさるや雪おる並さるつり  
 赤のさるは火を焚山家さる  
 赤のさるも真さるさるや約ぬき  
 うのさるや店さる飯さる百姓家  
 花さる小里さるさる 相の茶  
 赤の後の井戸さるさる 相の茶

未粧 赤海 糸遊 蒼乳 推己 茶店 茨市 菊後 保吉 嵐水

卵花

桐花

上

下



廬摘

くわの家よもすまや相の花  
きりあふまゝのきりあ相のくわ  
ほくく隣りの相乃花ひじし  
すまの野も園の摘ひけり  
枝や何ぞもけりあさ砂の上  
くわの枝や蝶々も昔めく  
枝のまゝもむく及び小雀も  
きりあぬやもくく家の水よふ  
折まてはまも葉もくもむ抽ぶ  
抽のまのくもきて早の枝もあ

表丁 焚凌 子枝 柴居 叶央 古川 孤山 吐月 奠品

抽花

茨花

小くはも抽ももる花抽ぶ  
枝のまやあもぬ人よもくも  
くわのもの古き人よさくも抽  
花も汁のくもひもさくも  
水のももちもぬる枝もあの家  
雀子の枝もあもくも茨の枝  
くわのまもひもぬるもの枝もも  
花もくも人の葉も花よ茨のま  
きりあは花もくも裾もくも山踏  
はくくの花もあもくも家根も

冬曠 凡二 支貫 千代尾 じ二 扇和 八胡 奠品 古枝 護物

さくの花



搔花

さくららの花をいじりや神子う袖

文貫

北辰のうすき散りたる好し橋

米浪

雪のもしき世をくちり橋さく

百羅

若葉

水足るる尾の折るくわの葉を

芽磨

山さめり葉よはき月日く

貞秀

片さやう葉うらうさく鶺鴒

五陵

月嬌しそも夜をむくわく

芳洲

つ守の椿くさるるわの葉を

護物

青梅

あけ梅や朝のまらるる梅并

未石

青海やあまこころとを教を

走け

まら梅や夜をさるる羊あは

菊後

まら梅や人を通さぬ塔さく

可魯

船玉の市酒泡しりよ梅を

竹馬

櫻實

さくらさの昔かきさくの実

存何

実さくや何れもさく家の

長水

はららの実踏て出る付子

和翠

花をさくし涙の玉りさくの実

輪之

葉櫻

葉さくや序やまらぬま

み夜

葉はらの花をさくし

茶静

さくらや南の口の勝り

宣彦



葉柳の葉は... 夕をく...

ふじ

葉柳の葉は... 家...

岩翠

葉柳の葉は... 西...

玉光

葉柳の葉は... 通...

清葉

葉柳の葉は... 破...

竹見

葉柳の葉は... 立...

光眼

葉柳の葉は... 以...

株系

葉柳の葉は... ぬ...

みち度

葉柳の葉は... 友...

扇和

葉柳の葉は... 通...

東陽

若楓

牡丹

鳥子の... 付を...

文郷

安き世の... 松...

素龍

うさ... 散け...

成美

うさ... 牡丹...

羅文

月... 牡丹...

鳥翠

葉... 牡丹...

春祐

葉... 牡丹...

鳥扇

一本の... 牡丹...

携衣

は... 牡丹...

白雄

芍薬... 牡丹...

聴雨

芍薬



葵

芍薬や庭下結んでゆく  
芍薬花虫とる人のまきと  
日まじく葵まきゆと麻  
かぎの綺葵アハハハハ  
花あひひ花ハハハハハ  
咲きこころ葵ハハハハハ  
そくそく月向人あつら  
すく繩の事の舟くくく  
白くや花は日まきとく  
野の細目花くくや

草夫 一肖 關更 崇北 雨塘 杉長 平雄 蒼白 笑五 耳谷

罌粟

月の夜を清くみよりの花  
くくくやは花をかくちり  
老つくをまよとく花の  
かまきくは花は花の  
苔のむる乾くをくく  
くを種てはくくくく  
山をの孫と遠くく  
世の影をくくくく  
カスのかの入りや  
杜くくくや芦田の水はくま

五湖 五編 揮堂 嵐太 鹿太 素共 鳥沙 大急夜 時喜雨 東陵

杜若



鷺尾花

家子居てゝの 叶あつて 杜り  
たつてみよ 一夜のや ちのまのり

碩高  
江

木下茂

はつこやの小 花信もぬきや のこ  
そはるもせうふまゝの 茂るる形

護物  
合

おくらに系よ 茂るや はつこや  
川の末ふらぬよ 茂るるる

春鳴  
圖南

草茂る木茂る海の かのこゆる  
日ととふ北 霞のゆく心 茂るる

栄枝  
一肖

木下闇

下やわまた 婦をくしめ 暗しき

梨箱

知中や 掠四五本の 木下や

合

細舟はまゝ 走まゝぬや 木下闇

貸僕

羨とるよ 山は 木下闇

咲菊

穉蜂の 鳴きつ 木下闇

東城

夏木立

奥くさも 村は 木下闇

蕪村

此のつと 木の 木下闇

宗古

川 木の 木下闇

古聲

雨乞の 木の 木下闇

梅関

かくきり 風の 木下闇

ちり

推の 木の 木下闇

護物

書盛木  
治葉

五

七



松落葉

やうくく交初る鳥や持葉ちる  
雪の巻ゆくけやわ葉ちほ  
菴の夜此のるよさしちるわ葉  
鯨よるゆりくはちちるふり  
淡うや一衣夜葉よささよ松  
りそれく糸を巾の落葉  
くく桂てあふ那き行のおちく  
はく採く舟の落葉の青空人  
美負くは陳の落葉もす人飽  
川の子やゆ鶴するも盗まは

夕夜  
弓雄  
李徑  
輪之  
淡水  
半彦  
玄  
袁丁  
幾物  
壽翁

竹落葉

竹

麥刈

竹の多や積るもかきく  
竿やはけしも家名よあふや  
瘦山や竿いそや竹よあは  
水筋の遠ふ竿河系う形  
麦刈や舟の家に向川岸  
麦刈の多くも紅川や新曇  
むき刈や蜜の家名も日一  
人老や麦くも秋も月夜よ  
黄ものをくも老へ麦黄くむ  
くき夜の片里白一麦の秋

夕夜  
有月  
月耕  
伊紫  
歸来  
柳莊  
何丸  
草地  
歸来  
北冥  
伯老  
歸来

麥秋

七上

七十九



茄子

麦秋の月ハのそとく出くく  
 春秋の中ハ梓のあきく  
 心を  
 梅人  
 輪之  
 春鴻  
 菓兆  
 耳谷  
 柳居  
 可譽  
 秋拳  
 可譽

覆盆子

さす梓ハちとほくまの  
 土のあもち用よちく  
 蛇いちと  
 秋拳  
 可譽

雁鳥入塙

杜鵑

塙ハ羽をのす度なる  
 子規月をうけけし木  
 郭ハ葉の後ハ決る  
 時多ふくや澄く入る  
 碎さめや山浦とま  
 老鴛  
 如一

老鴛

老くれく老くハ  
 如一







鶉飼

物ら二の海つてぬく。早瀬が  
 人おへくくぬ魚くる鶉のくく  
 かかーさの昼もさくぬ物川が  
 ぬくーく鶉もあけ物のみあくさ  
 ぬくー灯をぬや物ぬくぬぬのさ  
 物ほくぬや月のさかすの情あさ  
 鹿笛の月へさぬぬ鶉雁のぬ  
 卵子のぬもさぬぬやぬぬ鶉  
 ぬぬぬぬ夜ほぬぬぬぬ鶉  
 父ぬぬぬ鶉ぬぬぬぬ鶉魚  
 丹霞  
 護物  
 袁丁  
 吠羨  
 羅文  
 時喜雨  
 子々  
 吐月  
 阜池  
 鷄山

松魚

三日月のけもさるや物鶉  
 およぬぬ鶉も持くくぬ鶉  
 鶉ぬぬぬぬぬぬ夜羊のぬ  
 鶉ぬぬや合飲のさぬぬぬぬ  
 鶉ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 鶉つけて誰かぬぬぬぬぬぬ  
 鶉ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 鶉ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ  
 幸いぬ船ぬぬぬぬぬぬぬ  
 石芝  
 栄枝  
 蕪村  
 法  
 碓嶺  
 蕪村  
 魚隠  
 三喬  
 徐贇  
 黙念

鮎

鮎

上

上



蝙蝠

くはまきく奈とのよるの香  
掃場や檜桐のは切くはるる

寒崖

東我

くはまきくや足野所の相の香

竹馬

蚊喰鳥

蚊喰鳥の多きよ風のよき断

葛三

振ふるく草はくくは牛

暁河

蝸牛

子の虫は伝ふもまら 蝸牛

白鬮

家もくぬあまかくは牛

完未

蝸牛 天の角あまらり 蝸牛

恒九

くくくくくくくくくくくく

素御

くくくくくくくくくくくく

花陶

枝蛙

のき枝も移もくえは 而くは

塊翁

雨博かくやえ也かあもち

南井

学りの草もるらるや枝蛙

周里

おほえふくくくくくくく

何九

蚤

草鞋の及中もくけあまら

葛三

蚤の跡もくくくくくく

枝長

蚤つづふくく持てくくく

湖鳥

山の井も人の汲くくく

鷗里

及中の跡もくくくくく

也六

子

子子も竹枝くくく

全長

北

北



蜘蛛子

子子の拵てははちちううぬ  
 ほくまのぬく沈むおまを  
 子子よあましくさゆのさくはと  
 子子ら蟬、死てもまじりてく  
 拵のまよ醒ぬを角の二口碎  
 拵のまよはし厚世をるれまじり  
 山も人むくもよ納のさす  
 糸く土く四五りぬ地のは  
 相の葉もふはく雨、納のく  
 ねよまのさくまもくや納のさす

屋鳥  
 林糸  
 應窟  
 栄枝  
 輪之  
 護物  
 乙二  
 木海  
 去け  
 一肖

納

毛虫

本りかや毛虫のまもらうの時  
 ぬりやけりいそまより毛虫  
 ろくは陰と付めは流し毛むし  
 素の實と共は流るる毛虫の如  
 中よけし拾穂の夜やる経を  
 経の血死するてくはく白ひが  
 蟻もたてちひさくも草乾ぶ  
 蚊く起て啼くま親の藤白く  
 けの夜を押合つて鳴けり  
 蚊のさくはや漢の月を

力馬  
 一蕙  
 其若  
 六倉  
 両考  
 可磨  
 茶静  
 枚長  
 可厚

蚊

蛭



蚊遣火

蚊のあやや糸風のはらるる夕まき  
 蚊のあややち藪のむはらるる時  
 糸くハ大気流の蚊わらるる  
 葉の戸の蚊もや相々風をくむ  
 蚊もくもも飛ぶるる風の嵐も  
 花備のゆきもをけりや草も蚊も  
 蚊もくハ世もふもそ蚊も家も  
 糸差をきくくく蚊もくも  
 蚊の蚊もくく蚊もくも  
 蚊もくく蚊もくく蚊もくも

心非 菊塙 岳略 三香 牛乳 魚食 赤川 開更 携堂 雪雄

蠅

古くくくくくくくくくくくく  
 玉くくの交も母くくくくくく

玉珂 扇風

五月

うくくくくくくくくくくくく  
 けくくくくくく五月の窓の解  
 蚊もよよ蚊もくくくくくく  
 蚊の草も蚊も入さくくくく  
 陣くくく田井くく蚊も五月  
 焚のくくくもあけ 蚊くく  
 片町の帰帳くくくくくく

少汝 嵐丈 二川 双鳥 聽雨 柙居 太無

懺

七五

七五



杉系や上枚殿のさけ 檝 表丁

おろのうしろのまよはれほろろ 路郭

おろ娘も手傳ひ鳥子飾を刀 首三

君う代の不用の羽や飾太刀 芳居

おろ一人もまよえそや流ぬくくる 五明

かま鳥の白くはまけくくく 石芝

木うくまーまき房や競るの日 護物

君う代や中地すぬくわえうら 保言

中地うつじまよまけくく鬼ねひ 玉光

おろ人のうしろ流くまそや中地お 作意不知

猿

くくくく夜あまかきく 猿ふか 棠兆

婿うくくそ娘人ひきふちうくくく 菊所

花も実もささのうま来た猿、ね 昔芝

くねもくく子代もくねぬちまねく 時喜雨

後ひくくくまうねく 孫あね けさ

葎かてわやえさー也ねねく 蘭更

傘子さくくぬわとの首首く 天外

花くくものお座けく首首く 蕉雨

たよくくくおのそくよさくわえか 一蕙

月面一軒の首首の帯をけ 南鶴

首首

北土

南土



菖蒲酒

かたねのひ下戸の舟は菖蒲酒  
甘夏葉の庵子你を了あやえ酒  
傍山の目ゆとるむしや菖蒲酒  
朝戸出や惟子まこと梅の雪  
惟子やふひし夜ある月の舟  
うさややすきおぼしむ船の月  
惟子や静よくいさる米白さ  
惟子ハさくく清ゆとぬ男  
狼煙ハ船のつらゆり羊夏生  
さう流る門のむきさよ羊夏生

政二

太無

衣丁

篤光

梅月

九二

こえ

利雪

草夫

護物

惟子

羊夏生

梅雨

ハき津梅もあつくるまよる  
袖のむもさ実あつぬ梅のる  
むのまも伐るまよあつや入梅の重  
うさゆの下通さる梅のる  
入梅やと葉のはつぬ東細工  
はゆ晴や先鈴卵賣油くま  
梅もとあつ徑や井の皮移ひ  
山もや入梅くれすう厚の雲  
降るくくも雲る五月る  
ささくらの夕飯とやま山家も

伯先

全長

李尺

風實

玉川

政二

竹馬

南井

凡十

玉泉

梅雨晴

五月雨

五

五











合歡花

夕井や里のいづはりの真まひり  
 夕井や滝のうらふまのちり  
 夕井や合歡のむさくしの節  
 合歡のそ旅を忠しきつり  
 そのまもはるるまをさくや合歡  
 むさく合歡あや合歡さく水のま  
 さく合歡をさくして秘人柿小の  
 夕井の掃除カクやも柿  
 雙くさく油の店裏や柿ちり  
 羨ましくもや柿のさめりは

双湖  
 五鹿  
 宗讚  
 老ひと  
 亀夫  
 司馬  
 護物  
 夕井  
 三用

檜花

栗花

柿花

こちまの柿花を多のふはり  
 ものふ何をもむさくしの店を栗  
 山まのりかへすうそ栗のそ  
 うも旅をさひはりやさくま  
 小くさく家のむさく栗のそ  
 はりむさく後も引ぬや栗の花  
 むさくしりよむさくし柿のそ  
 深柿も娘は流るるまのそち  
 山けや田のそまらる柿のそ  
 堂もむさくむさく柿のそ

桐栖  
 真栖  
 其石  
 一蕙  
 一葉  
 護物  
 檜堂  
 鷗里  
 其翠  
 詠扇

上

下



山梔子花

呼撫きぬ家々ハ所一掃の家

杜英

山梔子のちやまよくあるやむ

玉光

くちあやあし信たのるくを

志遠

紫陽花

あらしのふはらうれてすむあふ

五明

はあゆむいづぬあふふあふ

乙二

紫陽花の友のあふり山り町

みろ

あらしのふはらうれてすむあふ

捍歌

はあゆむや都り細るるるる

朝夫

南天花

南天のあふあふやあふり

乙二

南天のあふあふあふり小門口

鷓里

百合花

あふりのあやあふりあふり

亀丈

はあゆむの百合あふりあふり

成美

あふりあふりあふりあふり

来能

百合のあふりあふりあふり

芳水

草のあふりあふりあふり

はくち

一掃のあふりあふりあふり

運提

姫百合

あふりあふりあふりあふり

指月

あふりあふりあふりあふり

竹馬

夏菊

あふりあふりあふりあふり

掛程

あふりあふりあふりあふり







羽衣をくわたりし ころも葉もさび  
 太節  
 あり世は空しく 用向る流葉も  
 黙る  
 古び蓄のほきて 垢守も葉も  
 雉扇  
 漣のうきくは 時と来よら  
 一草  
 しく竹や葉 懼れをいよむある  
 屋鳥  
 序や欲をさめれし 人の上  
 亮儿  
 しくかたの 葉やおれの根も  
 軽子  
 流の一里 流もくはくも  
 車両  
 川島やま 田のふりも  
 保吉  
 秋の 青をさくくは 志氣  
 女房

真菰

萍

舟人の一編 解く一志 菰、水  
 乎意  
 青すはら 芦のうき葉の 押の先  
 士朗  
 しく世は 人方 刈る 芦の 丸屋し  
 乙二  
 序のうき 葉をい 芦のうき  
 草夫  
 まのいし 叶 横く 吹く 山の 雨  
 草兆  
 おも 友の 小田 ちいさ 木の 根よ  
 護物  
 おも くの ち 苗 押舟し 田の 余り  
 李尺  
 日 しく 繪 しく ちいさ 葉の 山  
 旧友  
 川骨の 二七 しく ちいさ 葉の 中  
 蕪村

青芦

澤瀉

蓴菜

川骨

上

上



川骨やまろく故の虫くし葉  
 白雄  
 仙骨や押まろく雪一まふき中  
 保吉  
 久ほのや世名はくもむのくち  
 釣翁  
 川ちのや釣の虫居る萩の代  
 周雅  
 夢のまの字味よき傍の空床と  
 政二  
 雷くぬき蕪きくわききき色ど  
 棠兆  
 小くそ竹ぬくまや、その海  
 今る彦  
 夢まろく一畔の墓よくくくんま  
 護物  
 鹿子  
 死走くくそのくちハまぬ鹿子く  
 蒼虬  
 風のゆる日ハ白くまぬ鹿子く  
 津人

鶴の中 走らぬけく鹿子く水  
 乙二  
 すく子の氣房まろく一麻の後  
 可磨  
 病まきむく川よそく鹿子く  
 六車  
 音を入る 雪水よくく水けり  
 保吉  
 音を入るくはす水あをす人里り  
 石羊  
 月もはや水鶴ふく東の橋の上  
 素檠  
 朝陽まきぬく水鶴の 宿の流  
 木海  
 田一板あまこの家やく水鶴  
 音峰  
 尺短くまのの水鶴も走ぬそ月ぬ  
 有月  
 水~~~~~水鶴味一や珠の任  
 竹馬

上

上



蒼鷺

まろしやうのつら牙も初くぬれあまらざ  
蒼鷺やろくろくまの五六五  
まろしやうの身ふくねの目もろくか  
まろしやうの足もはらわたりる  
蒼鷺や降ハさうりぬる  
鶴一羽もたふとれくハ後を  
勢切ハそそてきハんさうり  
雨ハそそぬるふくたふさ  
鶴の世よまきそり深巣くね  
後れくハ深巣きつものうら

標堂  
篤と  
知方  
玉光  
女 應  
白雄  
平家  
力和  
于當  
野渡

鶴

鳴子泉

鳥子  
堂

照射

鳴きく海表の花とむくさ巣く  
鳴の泉や風のそらるハ船きり  
鳥の子や盡まらむ子の母くふ  
鳥の子や定めつハ人々鳴  
ほろはらわねけらそめゆ  
菅の葉の堂を唯ハ客屋く  
君もれや葉の堂の弱き  
くハ堂柱の口をよけもせ  
そ味の犬もきりハ花あは  
ゆけかのや思射あまて水の音

さう雄  
瓶生  
みろ彦  
護物  
葛三  
典路  
菊成  
菊塙  
瓶生  
若翁



照棟

りしすくく水くくくくく漢舟  
川上を鶺鴒の業をくくぬ照射  
木の燈照射おくこの呼まき  
母の子子子に照射して床ぬあど  
火車立く風くく木の曇くく  
歩性つる空くくくゆか  
あくく串あくく女鹿や恨くく人  
くくくくくく竹くく風くくくくく  
くくくくくくくくくくくくく

士朗 昌作 方貨 護物 保吉 雨塘 葵洲 子枝 蘭大

火車

六月

六月や白くくくくく  
六月や櫻子くくくくく  
六月や山くくくくく  
六月の影くくくくく  
六月や井の宿くくくくく  
水無月や山くくくくく  
くくくくくくくくくくく  
水くくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくく  
不二をくくくくく

みき彦 貞松 斗入 湖外 石海 長翠 葛三 芳居 護物 音牛

水無月

氷室



夏氷

ねむし〜とさ〜出〜り少室さ  
 少室さ清氷よくけい〜とぬ〜や  
 梅さ先〜〜ま〜も〜れ少室さ  
 神二よのや〜ふ〜く〜氷室さ  
 鶺鴒ふも舌冷〜さよあつ〜氷  
 笠〜く〜く〜へ〜ま〜やこの少〜  
 かか〜夏の屋敷す〜〜や雪百尺日  
 岩魚ふも〜く〜〜煮〜く〜なつ〜氷  
 小田原〜〜医老のま〜さ〜ふ〜信  
 不二坊離の赴〜く〜〜を月夜〜  
 九二

富士詣

祇園會

新日や不二同のりの雪の杖  
 祇園會や湯の〜り〜る梅り祥  
 夕立の法興〜波〜らや非〜る  
 祥の児笑〜〜花も傳〜  
 鯨も〜り〜〜糸の太鼓〜か  
 梅〜深〜く〜糸の糸の曲突〜  
 鯛子も〜り〜〜ま〜き〜ま〜  
 竹伐や法術〜ち刀の尻〜  
 竹〜〜や〜岩〜さ〜沙〜  
 竹伐やふ〜〜の松〜古〜年  
 護物 蓋村 柙几 何丸 柙良 白雄 炒扇 一肖 護物

鞍馬竹伐



施米

後河一記信ふ都りり 施米くか  
人後よ七坊末て時 於米い

蕪村

簞六

雨乞

雨乞よ糸もきしらん 草の香  
るをよ幸先ゆよや 於の香

得雨

玉光

土用

老信の根香を免くは土用よ  
穀伐の香 勿きや土用入

春鴻

茅磨

望の傍よ小をきしし土用よ

岩甲

於子の子姑述て新入ち月よ

可磨

棠こかきの山香 於よ土用う於

一寄

虫予

湖うぬくくこくく 土用予

羅城

暑

じー予やううやまぬる料作人  
虫予や刀ふき世のあうくく

今言

弗水

虫予やまいつる戸カ相柳

大江丸

むー予や雜ふつーくまうくは

如毛

暑きりやむつ新のきー枕の枝

塩叟

とらふ船つげくも暑ーおものま

羊渚

あうきらやあうきらよの 小酒盛

志げ

細予いーうきらへ暑き 於日うか

山有

夜の暑 田う火うう命よ 老う暑

兩塘

夏日

上

上



炎天

山の水も夏日のさそくのそまらん  
夏の日おいらはらるるや雉子の羽根  
野火の伝ふまき人夏日さん  
あつても恨まらぬゆるせうの歌  
あつてもや竹の中にもはく運  
雲を頂てあつても男彦改め坊  
三日月はかき採りけりその峰  
雪のふの漢村の柳まらり也  
山人の歌くもるやきりのほ  
荒れゆくさるの所美やきりの峰

今夏 井眉 護物 蒼乳 竹思 還古 米彦 乾夫 晉峰 菊塙

雲峰

夕立

雪の降るうら家ハさそほらうら也  
夕立やとては涼しき情のうけ  
ゆらぎやはらしく都の茶の麻  
夕立のさそほらくもる山はら  
夕立の節まらるるうらうら  
ゆらぎをさくく情のうけ  
しきの羽よりさそほらうら  
まらるるうらうら男も  
昔のうらうら北の山の子  
情の袖もさそほらうら

泰水 白副 月居 武陵 薰岳 仙枝 中谷 那護 馬月 ちんた

音嵐

二

三



風薫

風薫る里やちの竹の葉  
くせきる枝の下も松陰も  
うねりもはなれぬあけの空  
三日月や冷く白くくさくさ  
風をきくるとて合掌のうら  
きよきよやあけの日のついで  
すくすくも果てなく廣う  
涼しきや朝白をくさくさ  
涼しきやあけの日のついで  
あけの日のついで

蘭更 盃 葛三 椿堂 桂理 曉臺 岱音 成美 宮庵 八重

涼風

月涼 月すくすくも  
右に涼れを涼しき月の道  
涼しきや朝白をくさくさ  
月涼しきや朝白をくさくさ  
月涼しきや朝白をくさくさ  
涼しきや朝白をくさくさ  
涼しきや朝白をくさくさ  
涼しきや朝白をくさくさ  
涼しきや朝白をくさくさ

也右 士朗 三津人 輪之 仙骨 釣翁 桐栖 志 炉扇 挂羅

納涼

二

掛







簞

白く戸を垂るてくむく一盃酒  
 月うつ水に影をくむやかくも酒  
 暮らふとくはあふ一盃酒  
 赤のつとてかてくもぬきむく  
 世にふくはまてくはまてく  
 床をおまてく樹下をくたむく  
 傍にの海をくろさよまてく  
 かくくこの歌のまら色 簞  
 床をくは何もおもくは中ぬ人  
 けう君を南向をく 竹婦人

全夜  
 風谷  
 掉歌  
 万和  
 武陵  
 旧友  
 一蕙  
 みつ成  
 一枝  
 二観

竹婦人

汗拭

夏瘦

竹婦人こくもきくふ出く  
 床のふくくはあふ一盃酒  
 月もれしはくくくや竹婦人  
 汗拭はくはくく人や新のね  
 白られんくくくくやらき拭  
 古はくくくくく人汗拭  
 夏瘦もくくくく角力  
 名やまや人くくくく其の塵  
 夏瘦もくくくくくの子  
 夏瘦もくくくくくく  
 岸根

曉翠  
 夢里  
 魚大  
 改二  
 笠庵  
 鷗里  
 土光  
 菊後  
 素孝  
 岸根



百日紅

草のこゝも百日紅の日にあはるる

瑞馬

百日紅の日にあはるる

南井

凌霄花

凌霄花のふく病やあはるる

宮彦

凌霄花のふく病やあはるる

吐月

松のふく病やあはるる

光浪

凌霄花のふく病やあはるる

一肖

蓮

蓮のふく病やあはるる

野松

蓮のふく病やあはるる

千影

蓮のふく病やあはるる

衣下

蓮のふく病やあはるる

利雪

夕顔

鎌早の夕顔のふく病やあはるる

菊塙

夕顔のふく病やあはるる

雪雄

夕顔のふく病やあはるる

秋拳

馬洗の夕顔のふく病やあはるる

縣卿

夕顔のふく病やあはるる

季道

夕顔のふく病やあはるる

九朴

昼顔

昼顔のふく病やあはるる

春暉

報子の昼顔のふく病やあはるる

素樸

白の昼顔のふく病やあはるる

布榮

長湖の昼顔のふく病やあはるる

長湖



蒸

知る白くやうはくふかき小瓶  
空の舟の蒸ハあのはくく  
物まのふつゝのまをよまふ  
有るしてあふくぬ蒸く  
吹くはにんは花白きむく  
花律 彦もはのむらう  
むむく折角 芝も仕な  
蒸はて物ハハハハハ  
るくもてあまき板もむく  
且くもりの親子すくや麻の中

可厚 二柳 蘭更 巢北 万和 竹内 指唇 哀丁 黒船 蒼虬

葎花

麻

夏

麻はくく清きくや麻くけ  
麻越くく厚くくや麻くけ  
麻のぬのすくやまき青の雨  
祇くぬぬや麻をぬくく月  
二吹余もにくほんもの縁く  
まをまを淡のいなや縁の花  
くく畑も昼のまき上草い  
夜のほまき沙汰のむや縁の  
雷く小をハやく麻の  
この里よくも老くく凡のく

白翠 鷗季 芦舟 護物 孤山 菊塙 ちりま 亀丈 葦村 玉屑

凡花

二

1100







一掉ハまき田へソぬるり〜  
 以送るまき田やゆのほ〜  
 乙多の羽よゆ〜  
 始ぬり〜  
 又〜通る行〜  
 太麻を〜  
 川の東りの橋〜  
 川勢やも〜  
 川勢や〜  
 川勢や〜

梅僧  
 東弘  
 炉扇  
 右臺  
 今彦  
 袁丁  
 霞湖  
 泉水  
 鷄六  
 都克

川持

田草取

川〜の竹〜  
 川勢〜  
 己〜  
 妻〜  
 後〜  
 小〜  
 船〜  
 子〜  
 世〜

孤舟  
 竹市  
 葛三  
 叙来  
 笛三  
 吐月  
 玉光  
 菴十  
 伏音  
 袁丁

羽抜鳥

翡翠

鯉







茅輪

孺の毛や文哉七くりの川多々  
水々るるてぬけるちの輪

輪  
可部里

草むらさきとやけの茅輪

星布

造作糸く出まの輪

心非

人きく者もくぬちのくか

里朝

秋近

秋らくくあや古家のやうき

女彦

あまのくあや極糸く房の葉

茅磨

夏杲

夏らるる文度もあや江の小家

竹音

けりあの水々庵あやあき

河道

川水の道々けりや夏杲は

爽多松

夏杲 茅輪

三平源氏



